



この4月からをふりかえると、コロナによるさまざまな制約があったにも拘らず
子どもたちは、心の面でも、^{からだ}身体の面でも大きな育ちを見せてくれました。

実にうれしい事です。これは、子どもたちひとりひとりが、教師たちの呼びかけに
素直に反応して、意欲あふれる園生活に取り組んで来たからです。

ご家庭の皆さんのご理解・ご協力に感謝を申し上げます。

■実りの大きい2学期から冬休みに入ります。

年末・年始のはじまりに紛れず、規則正しい生活
をさせて下さい。

「生活表」を活用しましょう。「早寝・早起き」の
生活は大きな力になります。

自分の目ざすものに向かって、コ、コと
練習をし続けています。

休みの中で「継続は力なり」を
実践しましょう。

■3学期、始業日は1月24日(月)です。

冬の身仕度をしてください。

しほらくの間は、上下繋ぎの防寒着で登園
して下さい。

長靴に雪が入らぬよう「けはん」を付けて下さい。

「けはん」の下げ上げの練習を休み中
にしっかりと行って下さい。

雪あそびの時だけ、上げておきます。

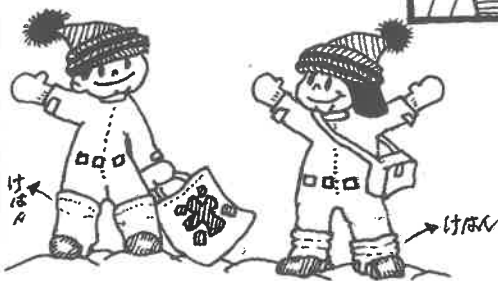
普段は、くるぶしまで下げておきます。

手ぶくろには紐と名前を付けて下さい。



防寒着に使う、こども用ハガーに名前付けて持た
せてください。つぼみと年長組は不要です。

10kgの米袋の中にダンボールを入れ、封をして、
持ち手のビニール紐を付け、名前を入れて持たせ
てください。雪あそび用のソリです。



たのしい冬やすみを! 良いお年をお迎え下さい!

(心の育ちシラズ)

声をかけてあげてください

泣いて笑って
たった一言

私が昼間、電車に乗っていたときの出来事。混んでは居なかったが座席は
満席でした。いつも近くにお年寄りや妊婦さんが居たら席をゆずるようにしていた。

私の視界に入ったのは、遠くで立っているかなり大きなお腹をした妊婦さん。

誰かゆずってくれないかなと思いつつ、一駅二駅と通過していく。

私の席は、大きな男性に挟まれて狭く、その上妊婦さんはかなり遠くに居る。ゆずって
座れるだろうか考えただけで、何を出来ない。

そんな時、ベビーカーの横で立っていた若いお母さんが、私の隣に座っていた若いサラリーマンの
肩をたたき、「あそこにお母さん産まれそうな妊婦さんが立っています。さきから誰か席を

ゆずってあげませんか。あのお腹だとかなり大きいと思うので、席をゆずってあげていただけ
ませんか。彼女に声をかけてあげてください」と言った。

男性はちゅと耳にすかしそと声をかけた。

妊婦さんの周囲の人は、下を向いた。妊婦さんは、歩いてきて私の隣に座った。
事情を知らない彼女は、わざわざ遠くから自分を見つけ席をゆずってくれた男性の
行為に、ハカチで涙を拭いた。

ベビーカーのお母さんは、何を言わずにこり笑っていた。

私も自分の席が狭くてゆずれないなと思っただけなので後悔した。
素敵なお母さんだった。

— 素敵なクリスマスプレゼントだね —